

年2回の映画パンフレットの旅

太田 義幸 通りすがりの映画好き

映画のパンフレット（以下「パンフ」）なるものはアメリカには無いそう。だからトランプ新大統領も読んだことはないだろう。アメリカにパンフがあったなら、メラニア夫人が『ジャッキー／ファーストレディ 最後の使命』のパンフを読んでファーストレディとしての振る舞いを勉強できたのにと残念がるかもしれないのだ。

私が小学生の頃は、学校で映画の割引券が配付されて、それを利用すると一人二百円ぐらいで映画が観られたと思う。で、その頃パンフも二百円ほどであり、入場料に比べて割高感があり購入にはなかなか二の足を踏むのであった。そんな中、初めて購入したパンフは『がんばれベアーズ』だった。今、見返すとパンフの裏に自分の名前が書いてある。「僕のだぞっ」てことである。うん、かわいいゾ。

購入すると当然に全ページ読むわけだが、基本的に読み流してしまつて、買ったことに満足している次第である。しかしながら、時々、何回も読み返すような内容のものもある。『親切なクムジャさん』のパンフでは韓国映画を観るうえで

「恨」という考え方が解説されていて、登場人物が「白い恨」を持つているのか「黒い恨」を持つているのか見極めることが大事ということが記されていたし、また、『恋の罪』では香山リカの「女性が本当にほしいものとはいったい何か。モノ、カネ、夫、子ども、仕事、婚外恋愛、趣味……。いやいや、いずれも違う。禁じ手の答えは「死」であるが、それ以外の答えを何とか探そうとしている」という文章に興味をそそられたものである。

当然ではあるが映画のパンフは、その映画が上映している映画館で、その期間しか販売していないものである。なので、通信販売という手はあるが、上映が終了したり、映画自体の上映が無かったら購入できないのである。たまにテレビなどで感涙ものの映画を観たときは、パンフもゲットしたくなるのは世の常であるが、なかなかそれは叶わないのである。

そんな私が、ある日、ブックオフで映画のパンフも売っていることを発見したのである。しかも、お値段はすべて百円（税抜）均一である。これには驚いた。なぜなら、たまに映画館で唐突に「懐かしの映画パンフレット販売コーナー」が期間限定で設置されることがあるが、当然のように封切り時より高い値段で販売されており、安くても千円ほど、高いと

何千円もするのを見てきたからである。先日は『仁義なき戦い』のパンフにナント八千円の値がついていた。

「ブックオフ映画パンフレット廉価販売の事実」を発見した当時も四日市にブックオフは2店舗。1店舗目で何冊かのパンフを購入し悦に入る。そして2店舗目でもそこそこ購入と言うことは、他のブックオフでもお宝パンフがあるに違いない。そこで、今度はいそいそと津市のブックオフに出張だ。が、その店舗のどこを探してもパンフは無い。丁寧に店員さんに尋ねるに、その店舗では扱っていないとのこと。何と、同じブックオフでもパンフを扱っている店舗とそうでない店舗が存在するのであった。なるほど、なるほど。

三重県内だと店舗数も限られているし広範囲になるので、名古屋市内を一日かけて巡ることにした。港区からはじめて名東区、北区、中川区などをまわり弥富市でフィニッシュとする行程でパンフの旅に出ることにした。先ほども述べたようにパンフを扱っていない店舗もあるので事前に電話で確認だ。

「はい、お電話ありがとうございます。ブックオフ〇〇店、〇〇がお受けいたします」。うん、どこの店舗も電話の受け答えが統一されている。さすがだぞ、ブックオフ！。

最初のパンフの旅としてゴールデン・ウィークに10店舗ほどまわり、15冊以上のパンフをゲットした。『燃えよドラゴン』『激突』『俺たちに明日はない』などのパンフ。満面に笑みをたたえて帰宅したものだ。

数週間後に再度来店しても、品ぞろえはあまり変わらないはずだからと思い、次のパンフの旅は秋のシルバー・ウィークだ。前回のゴールデン・ウィークの時と同じ店舗を呑気に回っていたら、何と今回は取り扱っていない店舗も出現。そればかりか閉店している店舗もある。

逆に、以前は扱っていなかったが今は扱っている場合もある。何事も事前調査は必要なのだ。それ以降、旅の前には必ず店舗に取扱いの確認をすることとしたのは言うまでもない。

ブックオフだから、もともと誰かが持っているパンフをブックオフに売って、それを販売しているものと思っていた。確かにそのようなパンフも多数あるのだが、何店舗もまわるうちに、どうやらそのように誰かが所有していたものというよりは、どこかで売れ残って在庫となっていたものが流通されている方が多いことに気付いた。『スピード2』や『ダイ・ハード2』『ハリー・ポッターシリーズ』なんかは結構多く

のブックオフで見かけるのだ。『風と共に去りぬ』のパンフもレアものだと思っていたが、そこそこ見かけたりするし。また、たまに現在上映中の映画のパンフが販売されていることもあるが、あれは買った方がいいが読んだらもう用無しってことで売りに来た人がいたってことだろうか。

「ブックオフ買物あるある」であるが、「おおつ、レアものパンフだあ」と喜んで購入して帰宅したら実は既に購入済ってことありますよね。記憶力の衰退ですね。そうなるのだブツパンフは再度ブックオフに売りに行くわけだが、購入価格は十分の一の18円になるわけですね。うん、どんなお宝パンフでも18円。トホホですね。

で、再度このような二重買いを防ぐために50音順のパンフリストを作りましたわさ。でもでもリバイバルなんかの上映の時は映画会社も儲けるためには、ちよちよいと修正して新たに別もののパンフを作るのですねえ(『君の名は。』はロングラン上映中に第二弾のパンフを販売していたのでビックリしたけど)。そんな訳で『E.T.』『ディーバ』『となりのトトロ』『フェイク』『ベンハー』『リバー・ランズ・スルー・イット』『猟奇的な彼女』『レオン』『ローマの休日』『ロミオとジュリエット』は二種類のパンフがあります。

基本的に、年に2回、この映画パンフの旅に出ているが、最近は10店舗回っても二、三冊ぐらしか欲しいパンフをゲットできなくなってきた。一日中、名古屋を巡って収穫が少なくてガックリすることもあるが、一冊でも以前から欲しかったお宝パンフをゲットできればご満悦となるので、この旅は今後も続けていくことになるだろう。うん。

